

短時間で終了してしまう講義でも、時間配分を考え行っただき、良かったと思います。わかりやすく話して下さい助かりました。
痰を出しやすくするための条件や体位を整えるケア、口腔内のケアについてよくわかりました。
具体的で身近な内容だったので、勉強になりました。普段の仕事に活かしたいと思います。
痰を出しやすくする3つの条件（重力・痰の粘性・空気の量と速さ）、体位を整えるケアによって、楽に相手が受け入れられることを学んだ。どう実施するか、痰の粘りなども理解できるようにしていきたいです。
痰を出しやすくするケアは病院でも役立つ講義でした。また、記録の大切さや他職種連携の大切さも改めて認識させていただきました。
記録を取ることで、他の職種に報告することの大切さが理解できました。利用者の普段の様子もしっかり伝えられるようにすることを学びました。
記録の時に5W1Hが書けていない時があった。とても大事なことだと感じたので、今後注意していきたい。
看護師に気付きを伝えると、「そんなことぐらいで」と怒られます。伝える工夫を検討致します。
痰の吸引の際に、体位までは気にかけていなかったと思うので気を付けたいと思います。

講義Ⅳ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説4 佐々木淳
記録について客観的に速やかに報告することについて、「図形を用いてその図形を言葉だけで伝え、理解して貰う」講義を実施しましたが、思いのほか伝えることが難しかった。現場での状況を正しく伝えることの難しさがあり、正しく客観的に報告する大切さを学びました。
表現の仕方、とらえ方で情報が変わることが楽しかったです。
絵を通して情報の正確さの重要性を感じることができました。
グループワークを取り入れて、「伝えることの必要性和大切さ」を学びました。
グループワークで1つのものでも表現が色々あり、とらえ方もそれぞれで面白い反面、伝達の難しさを感じた。
グループワークの記録・情報の伝達など「どうわかりやすく伝えるか」が勉強になった。
自分の思っていることを着実に伝えることの難しさを勉強できました。物事に対して、「各々とらえ方が違う所でどのように正確に文章にして伝えるか」ということが大事か理解できました。
喀痰・記録・報告に関してとても丁寧に説明していただけたので、わかりやすく理解できました。
記録のグループワークで色々な観察が必要だと認識できて良かった。
記録について、共有できる記録を書けるよう、内容を正確に伝えられる技術は必要と感じた。
グループワークを行うことでコミュニケーションを図りながら行えた。記録に関しても、良い学びができたので活かしていきたいと思う。
わかりやすい説明だったが、講義の内容がとても難しくなってきたと感じた。
ゲーム感覚の講義もあり、楽しく理解できました。
他職種への情報共有を改めて教えていただきました。
口で伝える難しさがわかった。先入観が入ってしまうので、文章で伝えてもなかなか伝わらないこともわかりました。「伝える」ことが課題だと思いました。
今まで記録はケアワーカー同士でしか共有していなかったもので、今回の授業で記録の大切さを学びました。
吸引だけでなく、他職種との共有など仕事を忘れずにしていきたいです。グループで図を伝えるのはなかなか難しいと思いました。
記録を書く際には、色々な職種と情報を共有することが大切だと学びました。記録の内容として、実施日時が一番大切だと学びました。
グループワークはすごく楽しく行うことができた。人に伝えるというのは難しいことだと改めて感じた。
グループワークが面白かったです。図形を正確に伝えるのは難しいと思うと同時に、連絡事項をスタッフに周知することの難しさを思い出しました。
簡単な演習を使って、大切なことを教えていただけたと思います。
グループワークでは口頭だけで説明し、書き出すことは、伝え方によっては上手く書けなかったり、説明不足になることがあることを書いた物を見て感じました。
グループワークも交える場面があり、意欲が沸きました。
情報をいかに相手に上手くわかりやすく伝えるかが大事だと思いました。
同じ事柄でも人によってとらえ方が違うことがわかりました。誰もがわかる記録を心がけ、情報を共有できるようにしようと思います。
物事を正確に伝えることは難しいと思った。自分が伝えたいことも相手にきちんと伝わらないこともあるんだなと思った。
先入観だけで判断してはいけないと思いました。
少ない人数でもイメージは色々あると感じた。
想像だけで図を書くことで、伝える大切さがわかった。
わかりやすく説明していただき、ありがとうございました。体位ドレナージについては職場にて安全を考えながら試

していきたいと思います。
 ケアの記録は書いた時に人数が多いと同じような内容を書いていたと思います。自分達しか読む人はいないと思い込んでいました。

講義Ⅴ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 3 進藤晃

痰の仕組みについてよくわかりました。痰が出る仕組みなどはわからないスタッフも多いので、少しずつ教えて伝えられるようにしていきたい。

肺の仕組みのビデオがとてもわかりやすく学ぶことができました。

丁寧でわかりやすい講義でした。言葉の1つ1つの意味をわかるように教えてくれたので、呼吸・痰の流れが具体的に学べ、やっと理解できました。

肺・内部の仕組みも理解することができました。また、痰がどうやって作られるのかも知ることができました。

肺の仕組みや排痰ケアの方法など、すぐに試せるようなこともあり、病院に戻ったらやってみたいと思いました。人工呼吸器の仕組みがなんとなくがわかった。

肺の構造を知ることで、吸引ケアに役立つと思いました。とてもデリケートで細かい構造で、人体には重要な部分であるため、吸引することを安易に考えないようにしたいと思います。

肺の仕組み・痰の発生のことがよくわかりました。

解剖学・生理学部分の内容だったので、なかなかイメージが付きにくかったです。DVDでなんとなく理解することができました。

内容が難しく覚えるのが大変に思いました。

副雑音の種類と音の特徴などしっかりと覚えたい。痰の性状をしっかりと確認したい。

痰はどうしてできるのか理解できた。人は異物を自然に吐き出していて、目には見えないが排出されている。痰として形になるということは、異物が多くなって炎症を起こしていることが理解できたし、脱水により排痰が困難になることがわかった。

肺の作りがわかった。痰の性状により、どのようなことが起こっているのか知ることができた。

講義内容はビデオを通して学ぶことができた。痰について深く理解した上で、吸引へと繋げたい。

気管カニューレについて詳しく理解できた。吸入する際はしっかり頭に入れて行いたい。

解剖学や陰圧・陽圧が難しかった。

とても難しかったですが、わかりやすく図にいただいたりして下さったので、少し理解することができました。

呼吸に関する病気・肺の作りなどについて知ることができました。

吸引圧が他の講義と内容が違い、戸惑いました。

当施設では人工呼吸器を使っている人がいないため、実際にはどのような感じなのかイメージしづらかった。

今までの中で飛び抜けて専門的な内容だったので新鮮で興味深かったです。考えながら介護に当たろうと思います。

内容が深く、看護師の範囲もありましたが、勉強になりました。

痰と肺の仕組みと内容（色・仕組み・特徴など）がわかりやすいと思いました。

肺のメカニズムについて詳しく解説していただきました。自分の内部にあるものなのに、知らないことが沢山ありました。

講義の最後に問題があったのが良かった。復習も兼ねてできるので、他の講義でも最後の問いかけをやって欲しい。

呼吸確認を自分でやりすぎて右背部が痛くなりました。

肺についての勉強は学校でやった以来で忘れていたことが多かったです。

講義Ⅵ 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 4 進藤晃

かなり難しい内容でしたが、わかりやすい図や、大切な所を何回も繰り返し言って下さったので、重要な所はわかった気がします。

人工呼吸器の利用者が施設にいないので、イメージしにくいですが、対応の仕方や気管カニューレの重要性を改めて知ることができました。

気管カニューレの必要性と重要性を学べ、知ることができて良かったです。

人工呼吸器に色々あることを知りました。アラームに注意することなどは命に関わることなので怖いと思いました。

とても難しかったです。圧や人工呼吸器の仕組みなどなんとなくわかりましたが、覚えるのが大変でした。

人工呼吸は機械で膨らませているので苦しそうだと思いました。生理的な呼吸は穏やかに上下することを知りました。

人工呼吸器の仕組み・カフの仕組みがわかりました。どちらも関わる場面があるので、覚えたいです。

山の上での呼吸といつもの呼吸での圧の話がわかりやすかったです。まだまだ不思議なことが多いですが、呼吸器については少しずつ理解していこうと思います。

気管カニューレについて知ること、安全に気管カニューレの吸引ができるようにする。感染の危険性が高いことや、吸引操作に注意が必要であることも学びました。

人工呼吸器について学ぶことができて良かったです。

コミュニケーション手段の検討も考えていく大切さを学びました。

難しい内容を私達にもわかりやすく説明していただき、とても良かったです。
呼吸障害・肺疾患の大事な点を学べた。資料がいくつか見づらくわかりにくかった。
人工呼吸器の仕組みが今ひとつわかりません。気管カニューレ内部の吸引は適切に短時間で行うことが要求され、なおかつ事後の確認が重要だと知りました。
痰とは何か、痰の色や臭いの感染症の関係など医学的側面から学習することで、これまでの学習の整理をすることができました。
講義に関しては、図などを使用していただいたため、わかりやすかった。グループワークを通して多くの意見交換ができた。
「人工呼吸器のアラーム音は重要なので、すぐ確認に行くことが大切」ということや、気管切開のカフとは何だろうと疑問に思っていたので、教えていただけて良かった。
吸引の体験などをさせていただきましたが、体内の状態などわかっていないままだったため、今回の授業で吸引の怖さや慎重に行わなければいけないと強く感じました。
人工呼吸器のイロハがよくわかった。
人工呼吸器の仕組み、気管カニューレ、カフ圧など圧力の重要さや大事さがわかりやすかったです。
人工呼吸器を装着した方を身近で接したことがないので、難しい講義でした。しかし、そうした方との接点も今後あるかもしれないので、コミュニケーションの取り方など考えていきたいと思いました。
人工呼吸器の方の吸引は急いでしなければいけないことがわかった。
スピーチカニューレという物があることを初めて知った。内容が難しかったが、理解できるようにしたい。
少し医療に興味を持てました。
呼吸の仕組みを再確認した。今後もっと人工呼吸器の人の体交など考えていきたいと思います。
現場で気管切開の利用者が多数いるので、とても参考になりました。

平成26年5月28日【5日目】

講義Ⅰ 高齢者および障害児・者の経管栄養概論1 木田雅彦
とても楽しくわかりやすい講義でした。消化器の仕組みはわかりにくい所もありましたが、「私たちは何故この人にとって必要か」を理解していないとその理由がわからないと思いました。
腸の名称など難しいですが、説明はわかりやすくて良かったです。
ビデオを見て実際の「飲み込み」で行っているのを見ることができて、実感が沸きました。人体の仕組みは難しいですが、覚えられたと思います。
咽頭を食物と空気の両方が通過する。誤嚥がなくなる根本的な理由がわかった。
とても楽しい講義でした。私達の馴染みの少ない生理学をわかりやすく説明して下さいました。
消化器系の再勉強をさせていただき、ありがとうございました。
映像や写真もあり、わかりやすかったです。また、雑談の内容もとても興味深く面白かったです。
講義内容は図を通して行い、わかりやすかった。特に誤嚥についての知識を深めていきたいと思う。
普段の生活にも役立つ知識もあって面白かったです。
明るく説明され、研修5日目の身としては有難かったです。ポイントを押さえて教えて下さったので良かったです。
今回より経管栄養の内容になってきたので、きちんと内容を把握していきたいです。
消化器系の仕組みと働きの詳しい構造がわかりやすかったです。
内臓は自分の内部にあるけど、わからないことが沢山ありました。
消化器のことをこんなに詳しく教わったのは初めてで楽しかった。より理解することができて良かったです。

講義Ⅱ 高齢者および障害児・者の経管栄養概論2・3 木田雅彦
胃ろうでも誤嚥してしまうというのは知りませんでした。誤嚥が起こりにくくなるものだと思っていたので、年間で50%も死亡していると聞いてとても驚きました。それと同時に、気管カニューレも入っていれば誤嚥は防げるものだと思っていました。「筋力を付けるしか防ぐ方法はない」というのにはとても納得しました。
経管の入居者にとって、誤嚥性肺炎はとても多い事故の原因になるので、しっかり理解して、私達のできる範囲で防いでいけるよう努めていきたい。
口腔ケア・誤嚥などの仕組みと重要性を知り、理解することができた。とてもわかりやすく、楽しく聞くことができました。
経口補水液のOS-1などが水分吸収に便利なのは知っていたけど、3倍薄めてもOKということなので、職場に戻ったら利用者にも教えてあげたいです。
気管・食道のそもそもの構造上で誤嚥しやすいことに驚いた。皆に教えたいと思います。食事介助のタイミングや姿勢に更に注視したいと思います。
誤嚥についてのお話から人体の構造に繋がり、勉強になりました。動物と人間の体の仕組みまで細かく教えていただき、これから活かしていきたいと思いました。
消化器を使い、体の免疫を使うことで細菌から体を守ることが理解できました。

施設に戻った際、入居者の体調管理の見直しを行っていききたいと思います。
内容は難しかったですが、噛み砕いて説明していただいたので、わかりやすかったです。
経管栄養法のメリット・デメリットについて学ぶことができたので、しっかり覚えていききたいと思います。
嚥下の仕組みと誤嚥を起こす背景がよく理解できました。食事介助時には思い出しながら行いたいと思います。
胃ろうの種類やメリット・デメリットを知識として得られて良かった。
胃ろうになっても肺炎はなくなることや、飲み込みの仕組みなど理解できた。
講義の中で経管栄養を学ぶ上での基礎的なことを学んだ。今後、応用的なことも学んでいきたい。
1日の消化液の分泌量は7～10リットルだと知りました。消化器症状には様々なものがあると学びました。話が専門的過ぎてよくわからない時がありました。
ヒトとイヌの比較の話が面白かったです。誤嚥を防ぐ良い方法がいつか発見されると良いなと思いました。
今まで誤嚥性肺炎を繰り返す方が胃ろうにされる場合があるため、胃ろうによって誤嚥性肺炎は防げるのだと思っていたことが間違いだとわかりました。
胃ろうを作れば誤嚥はしないと思っていました。大きな思い込みを知れて良かったです。
誤嚥の人間と動物の違いを図と説明でわかりやすく教えていただきました。
消化や吸収について学ばせていただいて、消化器官の仕組みや働きを知ることができました。専門的すぎて難しく思いましたが、試験合格を目指して頑張ります。
経管栄養のメリット・デメリットが理解できた。経管栄養だけでは誤嚥性肺炎は防げないことも初めて知った。
よだれを垂らしている人の水分補給をこまめにしようと思いました。
胃ろうは誤嚥防止にならないということが印象に残った。
胃ろうをしている人は自分の病院にも多いですが、危険性についてまではよく理解していなかったです。

講義Ⅲ 高齢者および障害児・者の経管栄養概論4 木田雅彦
BMIの計算で、自分がいかに太っているか、そして食べ過ぎているかがわかり、ショックでした。なかなか自分でカロリー計算しながら食事を作るというのは難しいですが、意識してみようと思いました。
栄養剤も色々ありますが、その人にとって一日に必要な栄養を把握することも必要だと感じました。
栄養計算は今ひとつわからなかった。PEGの半固形化で押し込むタイプを使っている人がいるので、もう少し情報が欲しかった。
利用者や家族の気持ちに寄り添うことの重要性、医師や看護師との情報の共有の大切さがわかりました。
楽しい講義でした。栄養素の単位がよくわかりませんが、「ビタミンの何が足りないと、どのような病気になるのか」と言うのがよくわかりました。色々なお話が聞けて良かったです。
栄養管理について高齢者の方がどれだけの栄養を必要としているか、栄養管理についてどのようにして栄養を考えたら良いか学べました。
栄養について学ぶことができ、まずは自分の食事から見直していこうと思いました。
栄養については初めて学びました。BMIを計算してダイエットに励みます。
食事指示票など、施設の栄養士とも話し合っ、よりよいケアを心掛けたいと思いました。
栄養学はわかりづらいです。食品交換表も見るだけで頭が痛くなってしまいます。
経管栄養を行うにあたって、大切な体の仕組みや考え方など、とてもわかりやすく理解でき、とても勉強になった講義はまとまっていて、理解することができた。経管栄養剤の種類と適応など、多くのことを学んだ。今後活かしていきたい。
食品分類について学びました。1日に必要なカロリー摂取量を知りました。
栄養の計算は昔から何回聞いてもよくわかりません。とりあえずカロリーの高そうなものは見たまま高いのだと再認識しました。講義はとても楽しかったです。
栄養素についてや、食品の必要なカロリーなど、自分にも気になる話がいっぱい、とても興味深く思いました。家でも参考にしたいです。
その人に合った栄養カロリーの計算の出し方、食品のカロリーなど詳しくわかりました。
食品のカロリー・栄養・成分を知ることができて良かったです。
栄養について理解できた。理想体重の計算の仕方、必要カロリーの計算は少し難しいと思った。
食事についてのカロリーや摂取すべき栄養素などあまり考えていなかったです。

講義Ⅳ 高齢者および障害児・者の経管栄養概論5 藤井教子
経管を繋ぐ上で、利用者の観察には十分気をつけて行っていないと大きな事故に繋がってしまうので、意識して取り組めるようにしたい。
経管栄養のリスクなどを学んで、現場でも注意が必要で、命に関わる大問題にならないようにしなければと思いました。
良い関係を築けると、利用者の色々な不安も和らぐだろうと思いました。
経管栄養の実施手順がDVDを通して学ばせていただきました。

経管栄養の流れを確認することができました。
経管栄養だけでなく、常に日頃の状態を知っておく重要性を再確認できた。
経管栄養の実施上の注意点として、日頃の観察が第一であり、時間・量・角度など注意することが沢山あると知りました。
経管栄養の方法をビデオでしっかりと学習でき、わかりやすく学習することができました。
ビデオでわかりやすく重要な所を示していただけて良かったです。また、ビデオで行ったことについて「何故そうするのか」という説明があって良かったです。
講義内容は経管栄養実施上の留意点について学んだ。それらを踏まえた上で実施できるようにしていきたいと思う。
胃ろう・腸ろう・経鼻経管の手段を復習した。
ビデオによる経管栄養の手順の学習でしたが、わかりやすかったです。
資料の中で先生が強調した場所を読み返していきます。
実際に経管栄養をしたことはないですが、喀痰吸引よりは難しくなさそうだなと感じました。
実際に経管を入れるのが怖くなった。誤嚥性肺炎は胃ろう患者がなりやすいことを知りました。
要点が明瞭でわかりやすかった。実際に経管栄養の手順を学べてイメージが沸いた。
経管栄養のやり方が理解できて良かった。60分講義でVTR付きだったので、すぐ終わったように感じました。
経管栄養手順が理解でき、時間や方法や仕方などわかりました。
私の施設では対象の患者はいませんが、とても興味深く拝聴しました。ビデオを併用したのもわかりやすくて良かったです。演習は上手くできるか多少不安です。
経管栄養実施の手順が理解できた。チューブによるスキントラブルの防止のために、チューブの選択の必要性がわかった。

講義Ⅴ 高齢者および障害児・者の経管栄養概論6 有賀成子
実際にカステラを飲み込んだり、お茶を飲んだりすることが、嚥下障害がある人にとってどれだけ難しいことなのかがよくわかりました。そういうことにも注意しながらこれからの介助のやり方を見つめ直す良い機会になりました。
子供の経管栄養も大人と同じように気を付けて行わないと誤嚥性肺炎に繋がってしまうので、意識していきたい。相手の気持ちを考えて行っていくことが何よりも大切だと感じました。
「自分の体で試してみる・体験してみることで、その人の気持ちがわかる。そして、その体験を『気配り』として繋げていく」という内容が印象深かったです。
実際に現場にいると、「その人の気持ちになる」という思いは忘れがちになってしまいがちですが、その人の気持ちに寄り添う支援は大切であり、そういう思いを忘れずにいられる介護士でありたいと思いました。
誤嚥の体験はとてもためになりました。利用者には顎を引いて口を閉じて貰うように促していましたが、自分で体験するのは初めてで苦しかったです。
何事も相手の立場になり、五感をフルに活用して利用者の笑顔を守っていけるように支援しようと改めて考えさせられました。
口を開けたまま水分を飲もうとしましたが、怖くてできませんでした。利用者が苦しい思いをしないよう、これからも気を付けようと思います。
飲食の難しさを、身をもって体験し、どれくらい大変なのかを知ることができました。皆さんつらい思いをされているのだと感じました。
先生の講義の中で自分は何のために介護士をしているのか、介護士のあり方にハッとしました。
重症心身障害の子供達のように緊張する患者もいるので、病院に戻ったら試してみたいと思いました。口が開いていると飲みにくいことなど、現場で活かしていきたいです。
経管栄養時の急変時や状態に対して、五感を使って理解することを学びました。
実際に利用者の身になって試食しましたが、苦しかったです。
口が閉じられない・舌でしか潰せない状態での飲み込みの大変さをとても感じましたし、後屈の状態で水分が入ってくるとするのがとても怖いと思いました。
実体験することでつらさを知ることができました。相手の気持ちを考えて取り組んでいきます。
口を開けたままの飲み込みなど、気にしたことがなかったので、経験できて良かったです。
呼吸のや痰の音をしっかりと観察して見極める力を付けていきたいと思う。
利用者の食事の仕方を体験できて良かった。
実際に飲み込みの体験ができ、食事介助の体勢を知り、勉強になりました。
今回の研修で、どの看護師も「気付き」の大切さを伝えて下さるため、改めてその大切さを意識し直そうと感じた。
実際に食べる・飲むを体験してみて、飲み込めないことや飲み込みにくいことがわかった。食事介助時も気を付けていきたい。
講義はとてもまとまっていて、わかりやすかった。実際に自分自身体験しながら、良いケアが行えるように気をつけたい。
口腔・嚥下障害がある時の「食べる」「飲む」という行為を、身をもって体験できた。
頭で難しいだろうなと思っていても、実体験をすると、思っていたことを乗り越えて「できない」「つらい」というこ

とがわかりました。体が少し横に傾いても飲み込みづらかった。
先生がおっしゃっていた『看』という字は手と目が入っていて、私達は手と目を使う仕事だ』という言葉が印象的でした。私は看護師ではありませんが、私も手と目と耳を使って感じ、誇れるような介護士になりたいと思いました。
カステラで身体を傾け、舌で食べるというのを体験し、飲み込むのが怖くて、パサパサして食べにくかったです。普段、食べることを意識して食べないので、貴重な体験ができました。
口を開けてカステラを飲み込むのは、自分は舌が動き上手く飲み込めたが、皆が苦勞しているのを見て、難しいことなんだと改めて思った。
看護師に心が広い人が多いのは、きっと色々体験されているからなのだろうと感じました。弟が脳性麻痺だったので、なんだか懐かしい気持ちになりました。
体験することで普段感じる事が再認識できました。私は知的障害者と日々携わっています。軽度の方がほとんどですから、経管栄養を必要としている方はおりませんが、高齢化も進んでおり、いつか自分も携わることになると思うので、忘れないようにしたいと思います。
経管栄養の話が聞いて良かった。
誤嚥を体験して、なぜ誤嚥性肺炎が起こるのかがわかりました。
障害者としての嚥下動作は健常者にはわからないものでした。それぞれの立場に立ってケアができるよう心掛けたいと思います。
口を閉じないで物を食べることはとても困難で、危険なことだと思った。
障害のある方が食べることや飲むことがどれだけ難しいか体験できて良かった。
患者のことを考えて介助を行いたいと思います。気付くことの大切さを知りました。

講義VI 高齢者および障害児・者の経管栄養概論7・8 関美智代
経管栄養をやる際の注意点・大切なことを丁寧に何度も繰り返し言って下さり、大事な所がよくわかりました。
経管栄養を行っている人は、誤嚥だけでなく感染にも十分気を付けなければいけない重要さを学びました。利用者とのコミュニケーションが取れなくても、きちんと声かけをして接していけるようにスタッフ全員で心掛けていきたいと思いました。
経管栄養を行う際は、普通の食事と同じように声かけを行おうと思いました。
今日の講義を聞いて、色々な日々の支援について考えさせられました。色々な経験をしてきた中で、旅立った人のことを思い出して涙が出ました。何が正しくて、正しくないのか、いまだにわかりませんが、その人の最期の場所に出会えたことにありがとうという気持ちを持ち、支援していきたいと思いました。
傾聴することの大事さや同意を得ることが大切だと思いました。
不安へのアプローチ方法などをもと具体的に教えて欲しいと思いました。
常に相手を思いやる気持ちを持つ大切さを何度も話して下さい、胸に残りました。
とても患者に親身になって、寄り添っている印象を受けた。医療従事者とそうでない人との考え方、思いの受け止め方をもっと考えていきたい。ポイントも教えていただき、ありがとうございました。
誤嚥により肺炎になることが多い。口腔内の清潔を保つことや経管栄養に対する否定的な気持ちについて学びました。
先生は患者や家族の方に気持ちで接していると感じました。患者や家族がどういう選択をされ、旅立たれたかという話になんとも言えない気持ちになり、涙が溜まってしまいました。
経管栄養の方のみならず、人として関わっていくこと、職務に追われて見失うことがないようにしていきたいと思います。
利用者の経管栄養に対する気持ちなどしっかり理解してケアを行うなど対応していきたい。
経管栄養の方に対して、私は利用者の考える「ご飯」とは違うと思っていたため、起床介助する際に、「ご飯ですよ」と伝えることに抵抗があったのですが、今後はちゃんと「ご飯ですよ」と伝えていこうと思いました。
感染を予防するには、介助する側の意識と、実行が大事であり、傾聴と声かけと観察が大切だと勉強しました。
経管栄養と家族の気持ちを冷静に考えるということを学ぶことができました。また、声かけや同意の大切さをとてもよく理解することができました。
講義を聞いて、経管栄養のあり方などを考えさせられて良かった。また、慣れてしまうことで声かけをせず、「物」のように接する看護師もいたので、そうならないように尊厳を持って接していきたいと思った。
経管栄養を行うかどうか、家族の思いや本人思いなどを傾聴すること、心のケアも大切だと感じた。
講義の中で経管栄養について様々なことを学んだ。今後、それらの学びを活かして、携わっていききたいと思う。
胃ろう増設する際、本人だけでなく、家族への配慮も重要だと思った。
普段忙しい時など声かけを忘れて介助することがあるのを改めて反省しました。特に経管栄養の利用者には声かけしていないことが多かったのを、改めようと思います。
経管栄養など医行為になることはできないが、利用者の気持ちを傾けたり、家族の気持ちを考えて介護をしていきたいです。もし、利用者が気持ちを伝えることができなかつたら、利用者の立場になって考えて行動できたらと思います。
感染を予防するためにも口腔ケアを行うことの大切さがよくわかりました。声かけの大切さを改めて実感しました。
経管栄養に沢山種類があるのを知って、私の施設では何を使っているか知らないことに気付いた。今回知ったことを沢山理解していけたらと思う。

どうしても忙しくて、声かけや傾聴など疎かになりがちです。こういう機会に思い直してもやっぱり日常に振り回されてしまうので、反省することも多いです。
利用者・家族の立場になって対応していくことの大切さが改めて勉強になりました。
先生の「お・も・て・な・し」と「お・も・い・や・り」の気持ちが溢れ出る優しい話で良かったです。
手洗いによる清潔・感染しない・食中毒を起こさない、家族と利用者の気持ちを考えて、声かけの徹底など対応していきたいと思います。
利用者に対して声かけ、観察を行うことの重要性を改めて認識しました。仕事においても相手の立場に立ったケアを心掛けたいと思います。
経管栄養の方の感染症は特に気を付けようと思った。自分の清潔が経管栄養の方の清潔に繋がると思った。
様々な種類のフレーバーがあることを初めて知った。家族との関わりはとても大事だと感じた。
インフルエンザの検査でも、私は鼻から異物が入ることが嫌なので、経管栄養の方に対しても、もっと良い方法はないのだろうかと思ってしまいました。本当に入居者がそんな生活を望んでいるのか、私だったらそんな毎日は嫌だと考えてしまいます。本当に上手い下手だけの問題なのでしょうか。
経管栄養をしている患者の気持ちをどこか軽く考えていました。患者が苦しんでいるかもしれないのに、自分達の時間を優先してしまっていました。

平成26年5月29日【6日目】

講義 I 高齢者および障害児・者の経管栄養概論9・10 石坂洋子
テンポが良く、大事な所を押さえてくれていてわかりやすかったです。これまでの講義でも何度かヒヤリを書きましたが、他の人と比較したりはしなかったで、自分の気付けない所などわかって良かったです。
入居者への観察や状況をいかに落ち着いて報告し、介護士としてやるべきことと、経管時は特に危険なことが予測されるので、入居者の様子からイメージして未然に防ぐことが必要だと感じました。ヒヤリハットや事故報告書の書き方も第三者にも伝わるように意識して心掛けて記入できるようにしたい。
重要な所を集中的に印象深く教えていただいて理解できた。事例も良かったです。
自分の施設で行っているヒヤリハットと書式が違ったので、少し戸惑いました。
聞きやすい講義でした。報告するためのレポートを実際に記入して行って見て、他の人達と比べてこういった考えもあるなど、参考にしていければ良いと思う所が沢山あり、とてもよく学びました。
ヒヤリハット・アクシデント報告書など難しかったです。私の所ではヒヤリハット報告書がなく、アクシデント報告書のみなので、ヒヤリハットの報告書の検討もしてみたいと思います。
「体調不良を発見したらすぐ看護師へ報告する」のはよくわかるのですが、在宅で訪問看護を利用していない方もおり、報告以外に「どうしたら少しでも本人が楽になるのか」やアドバイスについても聞きたかったです。どの講義でも施設メインで進んでおり、在宅ではどうしたら良いのかも教えていただけると良かったです。
在宅ではすぐに医師や看護師は来てくれません。その時にどうしたら良いのかといつも不安でいます。
看護職員への報告の大切さがわかった。日常的に看護職員との連携を取っておこうと思った。アクシデントが目の前で起こることは少ないが、発見した時にはその状況を忘れないようにしています。
例で実際にヒヤリハットを書いて、よくわかりました。
報告書の書き方を改めて教わることができて良かった。注入時に何かあった場合は、注入を止めることを忘れないようにしたいと思いました。
経管栄養を実施するにあたって、それによって生じる危険と防止を理解するための講義をしていただきました。より状態変化に気付けるよう学びたいと思います。
ヒヤリハット・アクシデント報告を実際に記入し、隣の人と見せ合いました。他の人と見せ合うことで、記入方法の違いや表現の違いなど気付いて良かったです。
かなり早口の説明でしたが、要所のポイントを的確に教えていただけました。インシデントレポートではもう少し具体的な事例であった方が書きやすいと思いました。
挿入前に対象となる方の全身状態を確認することの大切さを改めて認識しました。普段より入居者の「いつもの状態」を把握していくことで、気付きに繋げ、早期の対応を行うことができるようにしていきたいと思います。ヒヤリハット時に気付き、多くのことを挙げて、ケアの質を高めていきたいと思います。
ヒヤリハット・アクシデント報告書の記入練習をしました。しっかり勉強したいと思います。
急変時の対応を看護師とよく協議しておく重要性を改めて感じました。
インシデントを記録する際は、主観（～だと思われる、～だろう）等の記載をしてはいけないことを理解しました。「いつ」「どこで」「誰が」「どのように」「どうした」をいつも復唱し、身に付けておこうと思いました。
経管栄養の際の急変対応は他にもまだあると思いますが、今回学んだことを基礎とし学習を続けたいと思います。
アクシデントレポートを作成することで、観察や対策を考えることができた。レポートを短時間で作成できると、手間が減り、レポートを出すことによって事故を防ぐ対策が増えると思った。
2件の事例をヒヤリハット報告書に記入しました。伝えやすく、的を射て書くこと・伝えることを心掛けるようにしたい。
講義内容はとてもまとまっていて、わかりやすかった。実際にヒヤリハット・アクシデント報告書を記入することで、様々な気付きがあった。今後、現場で記入する上で活かしていきたいと思う。

胃ろうについて、詳しく学ぶことができた。インシデント報告書の書き方について勉強になった。
ヒヤリハットの報告書の書き方の練習もあり、記入の仕方のポイントを掴めて良かったです。
異常に気が付き、中止するのは吸引も経管も同じで、重要なことだと確認した。
今までの講義でも何回かインシデント・アクシデントを学びましたが、初めてグループで考えるのではなく、一人でアクシデント報告書を書きました。普段は適当に書いていたんだなととても反省しました。これから正しく書いていこうと思います。
インシデント・アクシデント報告書を書く時は、「いつ・どこで・誰が・どのように・どうしたか・どうなったか」をわかりやすく書き、看護師に報告する時も冷静に答えることができるように日々心掛けるよう気を付けたいと思います。
ヒヤリハット・アクシデント報告について、少し悩んでいたのが、相談に乗っていただけてありがとうございます。施設に帰ったら進言してみようと思います。
事例からヒヤリハット・アクシデントを書いて、他の方と比べることによって勉強になりました。
胃ろう注入時に起こる危険や、ヒヤリハットの書き方などよく理解できました。
アクシデント報告書を書く練習ができて良かった。先生の喋り方が早かったのが気になったが、きっちりされていたので良かったです。エネルギーたっぷりの先生でした。
早口だったので、少し聞き取りにくかったのですが、テキスト・スクリーン・資料などを参考に学ばせていただきました。報告については職場でも行っていますが、より詳しく教えていただき、ありがとうございます。
ヒヤリハットの記入の仕方が理解できた。発生状況や対応の仕方を文章化するの難しいと思った。
「ヒヤリハットは始末書ではない」というのは知識としてはあっても、職場でそのような空気を作るのは難しい。今後はそのような空気を作れるようにしたい。
胃ろうの利用者がいますが、十分な観察が行えていなかったと思います。報告しなければいけない場面で報告をしっかり行っていたかなと考えさせられました。

講義Ⅱ 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説2 脇山千鶴
経管栄養の管理はまめに確認しながら衛生管理に十分気を配りながら取り組んでいけるように意識していきたい。
加齢により免疫力も低下している利用者にとって少しの最近でも影響があると思うので、手指や器具の洗浄・消毒は最も重要なことのひとつだと感じました。
ヒヤリハット・アクシデント報告を事例に基づいて演習させていただき、自分の思い込みや気付き不足もあり、正しく報告することを再確認しました。スキントラブルや器具洗浄など基本的な取り扱いを学びました。
観察と清潔保持について、とても話が聞きやすかったです。細かい所まで意識して、取り組んでいこうと思いました。
清潔保持は大切だと思いました。細菌の繁殖する時間の早さが思ったよりも早かったです。
胃ろうの取り扱いの説明が非常にわかりやすかったです。
経管栄養の器具の管理がとても大切だと言われてきましたが、具体的に熱湯や薬品でどれだけ菌が増えるかわかったので、気を付けようと思いました。
経管栄養の種類やPEGの種類を知り、それは日々変化していると感じ、情報を知る大切さを知った。洗浄はとても重要で時間や余裕を得ることも必要だと知った。
胃ろうの種類・栄養剤の種類を学べた。器具の扱い方や、洗浄方法など事故に繋がらないようきちんとした処理を行うことを心掛ける。
講義の中で重要なポイントをしっかりと学ぶことができた。経管栄養を実施する上で、清潔保持を守って行うことが大切である。その点をしっかりと念頭に入れたいと思う。
細菌を増やさない・感染させない。後片付けも気を抜かず、しっかり確認していきたい。
私の施設ではタンク型でなくパックなので、洗浄・乾燥という発想がありませんが、フラッシュ用のシリンジを看護師が洗っているので、その辺りで確認しようと思います。
実際に施設で見たことのある器具や胃ろうのことがあり、イメージしながらよく考えられました。
資料がカラーで、胃ろうの皮膚トラブルの状態がよくわかった。
細菌・消毒に気を付けながら、清潔を常に保ち、実施していきたいです。
器具・器材の説明や取り扱い方などを丁寧に教えていただき参考になりました。職場にはまだそのような方はおりませんが、対応できるよう覚えておきたいです。
講義を受けて清潔保持が自分の場合は不十分だと感じた。
PEGについて、今まで以上に深く知れて良かった。
「自分の所の病院がやっている清潔保持は大丈夫かな？」と思いました。帰ったら改善したいです。

講義Ⅲ 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説2 脇山千鶴
入居者の様子を毎日観察して行うことで、入居者の状態を把握できるので、日々の変化を観察できるようにしていきたい。
様子の観察と報告が大切だと思った。胃ろうは清潔にすることを心掛けていきます。
現在の職場で間違った方法で消毒していたりするということが、講義を聞いて知ることができて良かったです。ちゃ

んと基本を施設でも行っていけたらと思います。
勝手に判断せず、看護師や意思と連携を図っていきます。自分達の観察が利用者を守るよう頑張りたいです。
日頃からの関係性が高い方が、いざと言う時に躊躇なく相談できるので、皆にも伝えて仲良くしていきたいです。
色々な施設があって、色々な疑問や質問を聞くことができて良かった。在宅の介護士は病院で働く私達とはまた違う視点をプラスして見ているのだなと感じた。
経管栄養についての理解・安全に行えるか安心していただいているのか利用者の状態を個人で判断せず、医師・看護師に報告していく。
免疫力が低下している方が対象となるので、私自身が菌を持ち込むことないように清潔保持に努めていきたいと思います。
とてもメリハリ良く、ポイントがよくわかりました。良い声かけ・悪い声かけなど実演もして下さり、理解できました。
講義を通して経管栄養の技術を留意点について学んだ。今後、到達目標はしっかりと行えるようにしていきたい。
異常に気付くようにするにはその方の通常の状態を知ることが大切だと実感しました。
カラーの資料で写真集がわかりやすく見られました。イメージしやすかったです。
利用者の状態観察について勉強させていただきました。また施行するにあたっての注意など興味深く拝聴させていただきました。
胃ろうの利用者の身体の変化をきちんと見つけること、お腹の張りやバイタル異常を見つめるのも大事だと思った。

講義Ⅳ 高齢者および障害児・者の経管栄養手順解説 2 脇山千鶴
経管栄養の手順の中では介護士としての役割をきちんと覚えて、様子が変わる時は必ず報告していけるようにしたい。
経管栄養の手順と胃ろうの手順との違いを理解しました。
利用者の口腔ケアは3回しているのに、自分のケアが少し足りていませんでした。これからはエチケットとして気を付けます。
基本的な流れ、手洗い厳守、思いやりを持って利用者のケアにあたることの重要性などが学べて良かったです。自費はなかなか家族の同意は受けられず、当施設でも問題となっています。家族の思いから半固形で時間を短縮したいがお金がないので困っています。
いかに口腔ケアが大切なかがよくわかりました。食事をしていなくても、口腔ケアをする必要があるのだと知ることができました。
観察をきちんとできるように、焦らないようにやりたい。グループの人の前で演じることに抵抗があるが、演習ができるように頑張りたいです。
研修中に口腔ケアの重要性を何度もお話になられるほど、とても大切な行為であるということ強く認識しました。中には、強い拒否をされる方もいますが、そうした方に対して、どのようにしたら嫌がらないのか、行うことができるのかなど、考え続けていきたいと思います。
物品の管理や口腔ケアの重要性を再確認できた。
経管栄養の手順・注意点・確認事項・声かけまで行って終了しました。最後に用具の洗浄・消毒も教えていただいてよくわかりました。
日常生活を例に挙げて、口腔ケアの重要性や、菌を飲み込むことで誤嚥性肺炎を起こすと知った。
経管栄養実施手順について、安全に行っていきたいと思う。
経管栄養の仕組みや対応がわかり、ためになる講義でした。
口腔ケア・洗浄・消毒・清潔に気を付けて経管栄養実施していけるように行います。
経管栄養についての技術や注意点を詳しく教えていただきました。ユーモアを交え飽きさせない話術に引き込まれました。
普段の状態を知ることがとても大事だと感じた。口腔ケアの重要性も学べた。
経管栄養の管理が自分の所ではこれでよかったのか考えてみようと思いました。

講義Ⅴ 高齢者および障害児・者の経管栄養手順解説 2 脇山千鶴・渡邊幸子
手技が吸引と混ざってしまい、上手くできませんでした。ポイントを整理してちゃんと覚えたいと思います。
演習をやってみて、なかなか緊張して上手くできなくて、手順が飛んでしまいました。滴下時の秒数を2時間で落とす時の出し方がよくわからなかった。
実際に手順を行ってみて、初めて気付くことが多くありました。
実際に行ってみて、理解していても緊張してできなくなってしまうことがあったので、冷静に正確にできるように練習を重ねて行いたいと思いました。
演習を行いました、手順が飛んでしまったので、練習をするようにします。
実際にやってみると細かい動作が難しく、これからしっかり覚えていきたいです。
手技の時に緊張してしまいました。いつもの利用者という時のように、落ち着いてできるようにとにかく落ち着こうと思いました。

実演するのがすごく難しかったです。きちんと家で沢山準備したいと思います。経管と吸引での違いをしっかりと分けて練習します。
実際に人形を使用してみて、難しさがわかりました。始めは紙上でなるほどと思っけていても、いざ実際にやると頭が混乱してしまいました。
ただ覚えるのではなく、なぜそうなるのかを考えたい。
経管栄養の実施手順にならい、練習させていただきました。
実際に行うと、手順を覚えていないこともあり、上手にできませんでした。
練習を行った際、実際にやる時に抜ける所が多くありました。もっと練習して身に付けていきたいと思っけています。
やってみると頭が真っ白になってしまうので、手順をしっかりと勉強したいと思っけています。
デモをやってみて、とても緊張してしまいました。落ち着いてできるように練習したいと思っけています。
実際にやってみると、手順にとらわれて声かけが疎かになってしまいました。
大げさなくらいに声かけを行い、確認の声出しをして行うことができました。協力者の確認・様子観察を忘れずに行うよう努力したいと思っけています。
今回の経管栄養の演習も何度も自分で練習してできるようにしたいです。
人形を使用し、実際に行ってみると手の動きも上手くいかず、声かけが止まったりしてしまっけてしまった。何度も行ってみることが大切だと思っけていました。
講義の中で実際に行うことの難しさを知った。スムーズに実施できるように努めていきたい。
胃ろう演習をやってみて、頭では覚えているが、実際にやってみると、頭が真っ白になった。本番までにしっかりと練習しようと思っけていた。
手順がなかなか覚えられないと私の理解がいまいちなので、今後が心配になります。
実技は台詞を考えて何回も練習したいと思っけています。
実際に経管を入れてみてできると思っけていてもやり忘れていたことが沢山あり、もっと勉強しなきゃと思っけていました。
経管栄養は吸引より行程が少ないように見えて、声かけをより重視しているのので、話すことも多くて大変だとよくわかりました。
胃ろうの注入は実際にやってみないと難しく、練習が必要だと思っけていました。
演習をしてみて、手順や声かけが全く上手くできませんでした。
グループワークにて講義内容でわかりにくかった所を聞いて良かったです。
声かけや報告、また患者の様子観察など演習を重ねることにより習得できると思っけています。
実際に行うと、何かしら忘れることがあるため、慣れるように落ち着いて行えるよう練習します。
吸引の時の手順もそうでしたが、経管栄養の手順もやってみるとわからなくなります。もっと練習しないといけないと感っけてました。

平成26年5月30日【7日目】

講義Ⅱ 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説4 渡邊幸子
報告は普段しているが、全体で認識することが上手く連携が取れていないことも多いので、普段からちょっとした気付きでも、スタッフ間でコミュニケーションを取って共通認識を持つて取り組んでいきたい。
日頃からメモは取るようにしていましたが、報告内容がきちんとできるように改めて考えることができました。
報告と記録にて報告内容を共用すること、家族への連絡についてなどを学びました。
報告・記録の大切さや自分自身を守るために必要なことをわかりやすく説明していただき、良かったです。
しっかりと説明することの重要性について再認識しました。
経管栄養のみだけでなく、自分の日頃の記録を見直してみようと思っけていました。また、看護師や他職種への様々な報告も冷静に考えてみようと思っけていました。
日々観察・状況の変化を逃さず記録・報告を行うこと、普段の業務の中で常に行っているようにしていきたいと思っけています。
講義の中で報告および記録について学んだ。実施後の報告や記録はとても重要だということを知った。しっかりとわかりやすく行えるように身に付けたいと思っけています。
「報告をいかに相手に伝えられるようにするか」という内容がわかりやすかったです。
報告と記録の大切さを教えていただいた。私は年老いた両親がいるので参考にさせていただきます。
記録について重要な項目を伝える・行えるように努めたいと思っけています。

AED救急蘇生法演習・評価 日本光電工業
初めてAEDを使用しましたが、胸部を押すのが結構力が必要だったので疲れました。
救命救急はとても大切なことなので、しっかりとイメージして覚えていけるようにしたい。
初日でもAEDを使うことができましたが、今回もまた使うことができ、問題なく救命行為を行えました。
胸骨圧迫のやり方などちゃんとできているのか、専門的な知識を持った人に見ていただき良かったです。

いつ何時に必要になるかわからないので、いつでもすぐできるように、忘れずに習得しておかなければいけない実技だと思えます。
とても大事なことを教えていただきました。イメージしにくいことですが、いつでも起きる状態であることを念頭に置いておきたいと思えます。
実際に人形を使用し、AEDを使って動いてみて、とても勉強になりました。日々の生活の中でそういった場面に出くわしたら、焦らず冷静に今回学んだことを思い出して実施できたら良いと思えます。この研修で学んだことが誰かの役に立てたらと思えます。
AED実習を行い、救急に備えて慌てずにできるようにしていきたいと思えます。
何度か救急蘇生法を学んだことがあります。年が経つと忘れて自信がなくなってしまうので、年1回でも学べる機会があると良いと思えました。
AEDを実際に使う時が来たら、慌てて手順を忘れてしまいそうに思いました。何度も練習して、イメージを付け、他の職員や周りの人と協力できるようにしていきたいと思えます。
実際には練習通りにはいかないと思えますが、実演を思い出して行いたいと思えます。
胸骨圧迫時、手が離れてしまうことがあったので、注意したいと思えます。圧迫リズム・深さはちゃんとできたと思えます。AEDも何とか装着できました。
実際にAEDを使用するような場面で、落ち着いていられるか不安なので、使い方やその場面のシミュレーションを頭に入れ、冷静でいられるよう今回の講義を大切にしたいです。
人形を使用し、行ってみて手の位置・声かけ・確認することができた。
AED救急蘇生法について、とてもわかりやすい説明だった。実際に行うことで、流れの確認ができた。今後よりスムーズに行えるように学んでいきたい。
多少まごついたり、慌てたりする所がありましたが、実習できて良かったです。
今日の演習でも焦ってできませんでした。日頃の練習が大切だと思えました。
AEDの演習をして、人前で行うのは恥ずかしいけど、なんとかできました。経管栄養と吸引の演習は緊張するけど、恥ずかしがらずに本番でも頑張りたいと思えます。
気道確保がなくなったやり方を初めて行った。AEDのやり方も色々変わっていくんだなと思えました。
実際に演習をして、胸骨圧迫する位置やAEDのシールを貼る位置などがわかりやすかったです。
人形を使用し、AEDも触ることができたので、よくわかりました。
定期的に方法論や内容も変わってくるので、再確認できて良かった。
救急蘇生法について学びましたが、実際にしてみると頭が真っ白になって確認事項を忘れてしまいました。個人的に練習して、会得したことをしっかり覚えておきたいと思えました。
AEDの使い方が理解できた。日常生活で使用する機会がいつあるかわからないですが、その時になったら躊躇わずに使用しようと思えました。
緊急時のことを考えると、定期的に演習することで、万が一携わることになった際も、スムーズに対応していけると思えました。
AEDの使い方は色々な所で教わることがありますが、今回の研修ではより詳しく教えていただくことができました。胸骨圧迫が大切だと思えました。

平成26年6月12日

シミュレータ演習1日目
【喀痰吸引】口腔・鼻腔・カニューレと、それぞれ流れは大体同じなので、回を重ねるごとにできるようになってきましたが、微妙な違いに引っかかり、ごちゃごちゃになってしまうこともありました。まだ練習ですが、実際に患者に行うとなると少し怖いです。
【経管栄養】普段何気なく行っている経管栄養の一連の手順をしっかり覚えていくことで、どこに気を付けなければいけないかがこの研修で確認することができました。また、こんなに緊張して行くことも初めてなので、その中で改めて入居者の状態の観察についてもよく理解できました。ちょっとしたことで事故や危険に繋がってしまうので、気を付けて指示の下で取り組んでいきたいです。
【喀痰吸引】時間がかかり、最終6回目になってしまったが良い勉強になった。
【喀痰吸引】カテーテルの扱いに注意をし、着脱・水を吸ったりなど道具や利用者との位置に気を付けることを学びました。
【経管栄養】演習ありがとうございました。今日学んだことを注意して、現場で活かしていきます。現場での実施指導でも入居者の気持ちになって、自信を持って実際に行っていけるようにしていきたいです。
【経管栄養】イメージトレーニングと声かけ練習を少ししてきましたが、2回目まで上手にできなくて講師の方の指示の下、ミスも少なくなり最終までスムーズに行うことができました。
【経管栄養】実際の流れを行ってみて、なかなかスムーズにできず、焦ってしまいました。患者の負担にならないよう手際良くできるようになれるよう努力していきたいと思えます。
【経管栄養】極度の緊張のあまり、思うようにいかず、頭の中が真っ白でした。忘れることのないようにイメージト

レーニングもして、しっかり身に付けたいと思います。
【喀痰吸引】改めて手技を学べて、清潔不潔を考えて行うように頑張る。声かけも自分ではちゃんと行えたと思う。
【経管栄養】何度か演習しているうちに、自分の苦手な項目がわかってきました。わかりやすく説明していただいたので良かったです。
【喀痰吸引】口腔・鼻腔・気管カニューレの3種類の演習は、思った以上に大変でした。先生方も一生懸命審査に関わって下さり、丁寧にチューブの長さを教えていただき、皆の力を合わせた結果の合格だったと思います。
【喀痰吸引】最初は頭が真っ白な状態でしたが、段々と落ち着き頭を整理することで少し手順がわかりました。
【経管栄養】7日間の研修から日にちが経っての今日だったので、頭の中がこんがらがってしまいました。5回目で無事合格できて良かったです。明日の吸引の試験が怖いですが、手順がかなり細かく多いので、しっかりと確認してやっていきたいと思っています。
【喀痰吸引】すごく緊張しました。なかなか手袋も入らず、気持ちが焦ってしまう所もありましたが、声かけは日頃患者に行うように「何をするか」「どうするか」を落ち着いてできたと感じます。先生が優しく丁寧に教えてくれてとても良かったです。
【経管栄養】精神的につらかったです。時間がかかってぼんやりしてしまいました。
【喀痰吸引】緊張し過ぎて頭が真っ白でした。
【経管栄養】人形を相手にしましたが、模擬でもかなり緊張しました。何度も何度も場数を踏まないといけないと感じました。
【喀痰吸引】先生方の指導の下、本日の演習を終了することができました。喀痰吸引の手順が思うように実施できず、先生の指導がなければ演習を終えることができなかつたと思います。
【喀痰吸引】実施する前はとても緊張しました。回数を重ねるごとに少しずつ緊張は解けましたが、少し気が緩んでミスが発生してしまいました。全工程を経て、とても疲れました。
【経管栄養】とても疲れましたが、先生の指導のおかげで手順が覚えられました。
【経管栄養】演習時は久しぶりに緊張しました。なかなか自分の思うように上手くできず、講師の方々にもご迷惑をおかけしましたが、無事合格しました。本当に良かったです。
【喀痰吸引】何回か同じ所でミスをしてしまいました。実際に行う時にはミスをしないように行いたいと思います。
【経管栄養】演習を行うたびに、抜けてしまう所が違っていたりとなかなか完璧に行うことができなくて、焦ってしまいました。頭の中では理解し、イメージできていても、実際に行うとこれで良かったのかと不安にもなりました。胃ろうから経管の流れは掴めたのですが、やはり所々抜けてしまっているような不安がずっとありました。実際に利用者に行う際は不安な様子を見せないようにしなければいけないと思いました。
【喀痰吸引】口腔・鼻腔・気管内吸引の3種類を5回行い、「できていない」のに「できた」「できていた」のに「できない」という場面が数多くありました。忘れずに全ての項目をこなし、対象の方に迷惑をかけることがないように練習していきたいと思っています。
【喀痰吸引】本番では緊張してしまい手順を間違えてしまうこともありました。5回目は失敗することなくできました。利用者に行う時は、演習のことを忘れないで安全に行いたいと思います。
【経管栄養】講師の方々がとても親切丁寧に教えて下さり、合格することができました。講師の方が看護師だったので、現場の話など聞いて勉強になりました。
【経管栄養】実際にやってみると、頭の中が真っ白になってしまった。グループの皆のやっているのを見ると、声かけ一つでも様々あり、良い所は真似をしていたりと学ぶことも多かった。しっかり手順を頭に入れ、当事者の負担とならないよう、スムーズに行えれば良いと思った。今日教えていただいた注意事項も忘れないようにしたい。
【喀痰吸引】実地研修に役立てるよう、よく復習したいです。
【経管栄養】なんとかクリアできて良かったです。先生方が丁寧に指導して下さったので、助かりました。
【喀痰吸引】口腔内・鼻腔内と気管カニューレの違いがあり、戸惑うことが多かった。指導講師の先生が的確にアドバイスして下さり、とても助かりました。実地研修に向けてしっかりと振り返りたいと思います。
【喀痰吸引】今回とても緊張していましたが、先生お二人がとても丁寧に教えて下さり、楽しみながら演目が行えました。お二人の先生に感謝します。
【経管栄養】人形とペットボトルを相手にした時、同じ作業をしなくてはならないのに、別のもので判断し、必要な行程が抜けてしまうことがあった。実際に患者を相手に行う場合、色んな人を対応することになるので、このようなミスのないように気を引き締めて行うように努力します。
【経管栄養】経管栄養の評価を行いました。経鼻は授業でもデモンストレーションがなく、大変難しく感じました。
【喀痰吸引】緊張しましたが、無事に終わることができ、良かったです。皆の協力と先生の指導のおかげです。
【喀痰吸引】緊張する中、実習ができました。現場に戻っても緊張感は適度に持ち、実施していきたいです。
【喀痰吸引】手順を覚えるのが大変でした。なんとか無事終了いたしました。
【経管栄養】時々、何を確認して良いのかわからなくなることがありましたが、何とかこなすことができました。先生達が見やすく、こちらが疲れずに声かけをしてくれて嬉しかったです。
【経管栄養】緊張してしまって、1回目は頭の中が真っ白になっていましたが、回数を繰り返していくうちに少しずつ緊張が解けてきました。演習中、優しく見守って下さり本当にありがとうございました。

<p>【喀痰吸引】先生方がとても丁寧に教えて下さり、行いやすかったです。まだ所々抜けている所もあるので、注意して行っていきます。</p>
<p>【経管栄養】最初は緊張しましたが、回数を行うごとに落ち着いてきました。同じ所でミスが続いていましたが、4回目辺りでようやく修正できたという感じでした。冷静になることが大切だと思いながら、平常心になるのは難しかったです。先生に丁寧にご指導いただいて有難かったです。</p>
<p>【経管栄養】非常にプレッシャーに弱く、緊張しましたが、なんとかできました。経験を積みねばならないと強く感じました。</p>
<p>【喀痰吸引】喀痰吸引・口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内吸引を勉強した。かなりの回数を行ったことにより、自信を持って行うことができました。自信を持ると余裕が生まれるので、介助を行う際、利用者にも安心して貰えるのではないかと思います。早めに現場での実地訓練を経験したいと思う。</p>
<p>【経管栄養】最初は声が上がったり、手が震えたりしましたが、回数を重ねるごとに同グループの手技を見て参考にしたり、注意されたことを思い出し、2回目からはミスが少なくなり、最終的にはなんとかできましたと思います。続けて行うことで、手技も身に付いていくものだと思います。これから行うこと一つ一つ声に出し、声かけも自然とできるようになったと思います。</p>
<p>【喀痰吸引】演習シミュレータで行ったので、その手順を頭に入れることができましたが、実際に利用者を目の前にして慌てないように、自分自身でしっかりと復習しようと思いました。</p>
<p>【経管栄養】始めは緊張しましたが、ゆっくりご指導いただけたので、自信が付き、行えるようになって良かったです。</p>
<p>【喀痰吸引】内容を覚えることで、行動に移せると思いましたが、なかなか手順がわからず、何度か行っているうちに覚えてきましたが、1つ2つ手順が抜けることがありました。常に緊張感を持って確認しながら行うことを心掛けます。</p>
<p>【経管栄養】本日は経管栄養についての演習を行った。実際に演習する中で、回数を重ねることによって反省点を改善しながら行うことができました。現場で経管栄養を行う時には、利用者に安心していただけるよう、声かけや観察をしっかりと行っていききたいと思う。そして、安全面にも気を付けて実施したい。今回学んだことを念頭に入れ、安全・安楽に行うよう、今後も学びを大切にしたいと思う。</p>
<p>【経管栄養】ペットボトルを相手にするより、人形を相手にする方が緊張してしまい、手順が抜けることがあった。実際の利用者を相手にすると、もっと手順が抜けてしまうかもしれないので、1つ1つの手順をしっかりと確認し、焦らずゆっくり実施したいと思う。</p>
<p>【喀痰吸引】講師の方から細かく教えていただけたため、なんとかできましたが、本当に身になる演習でした。</p>
<p>【喀痰吸引】痰の吸引・気管カニューレの吸引を終えて、頭の中が空っぽになってしまい、焦ってしまいました。もう一度読んでシミュレーションしていききたいです。</p>
<p>【経管栄養】緊張して、前後の流れ・声かけ・物品の確認を行う必要があることを全て忘れてしまいました。回数を重ねると理解でき、スムーズに実技ができました。的確な指導ありがとうございました。</p>
<p>【経管栄養】手順を間違えないか不安でしたが、丁寧に教えていただけたのでわかりやすかったです。ゆっくりと行うことができました。</p>
<p>【喀痰吸引】患者に声をかけて安心して貰うための言葉選びが難しかったです。吸引カテーテルを挿入する位置の感覚がわからないので、復習していければと思います。すぐ不潔になってしまうので、広い範囲を見られるようにしていきたいです。</p>
<p>【喀痰吸引】とても緊張しました。口腔内吸引の際は、緊張して手が震えて作業にならなかったのですが1、先生の声かけとアドバイスで数回するうちに慣れることができました。慣れることで、実際に行うことになったら甘えが出てくると思うので、常に緊張感を持って行おうと思いました。</p>
<p>【喀痰吸引】口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内吸引を行ってみて、基本的な動作はほとんど同じですが、細かい所に違いがあるので、頭の切り替えをするのが大変でした。焦ってしまって、ちょっとしたミス（ヒヤリハット）が出てしまいましたが、指導者の方や班の皆さんが優しく教えて下さったので、無事終了できて良かったです。回数を重ねるごとに余裕を持ってできたので良かったと思います。実地研修の際には、今回のことを思い出して落ち着いてミスがないよう気を付けて行っていききたいと思います。</p>
<p>【喀痰吸引】最初はできるか不安でしたが、優しい先生方で楽しく勉強することができました。何度も同じ所で間違えてしまい、つまずきましたが、無事終えることができて良かったです。気管カニューレでミスした所はこれできちんと覚えることができました。引圧も忘れないようにします。</p>
<p>【経管栄養】2時間という長い間を動けない状態というのは苦痛だろうと思います。かといって、体を動かしてしまっても負担になるので、できるだけ始めに体位には特に気を付けようと思いました。胃ろうに比べ、経鼻はリスクが高いということで、より頻りに様子観察を行った方が良いということでしたが、忙しい業務の中では目を行き届かせるのに苦労も多いだろうと思いました。看護師だけに任せず、介護士としても気を付けられる所には気を配っていこうと思います。</p>
<p>【喀痰吸引】とても勉強になりました。実地研修も落ち着いて教わったことを活かして頑張ろうと思います。</p>
<p>【経管栄養】繰り返し行うことで、身に付けていきたくと思いました。他の方の実技を見ることで、自分の足りなかったことが発見できました。数をこなすうちに、自分ができなかった所も気付きました。</p>

【喀痰吸引】実際に行うと、緊張し過ぎて頭が真っ白になってしまいました。明日は少しでも緊張しないようにできたらと思います。
【喀痰吸引】演習になると、頭から忘れてしまい、手順が間違ってしまうことがありました。何度も演習し、正しい方法を身に付けたいと思いました。
【経管栄養】模型とペットボトルでも感じが違うため、それだけでも緊張しました。手順はわかっている、その場になるとわからなくなったり、途中で抜けてしまったり、間違いがあるとその後も混乱してしまいました。落ち着いてできるように勉強していきたいと思います。
【喀痰吸引】1つ1つの動作を確認しながら何度もできたので、よくわかりました。手順を忘れてしまうことも多かったので、しっかりと身に付けていきたいです。
【経管栄養】座学で学んだことを実際に行うことの難しさを実感しました。今回の演習で学んだことを実践で安全に行えるかどうか非常に不安に思いますが、危機感を持って臨みたいです。まだ喀痰吸引の演習が残っているので、そちらの方も手順をきちんと学び、実際に活かしていきたいと思います。
【喀痰吸引】緊張して汗が出てきたり、大変でしたが、無事終わって良かったです。
【喀痰吸引】実際に実施を行い、口腔内・鼻腔内・気管カニューレに吸引手順を間違えることなく吸引できるように頑張っていきたいと思います。
【喀痰吸引】5回演習を行うことで、よく理解できたと思います。
【経管栄養】しっかりと覚えることができました。実践でミスをしないように気を付けます。
【経管栄養】顔色・確認・気分不良など細かな確認があり、良い勉強になりました。
【喀痰吸引】年齢と共に記憶力が衰え、なかなかクリアできないことに恥ずかしい思いでした。同じグループの方々にも迷惑をかけたかと反省しきりです。
【経管栄養】手順を全く覚えておらず、勉強不足を感じた。毎回ミスをする所は同じで、指摘されて気が付いて、指導してくれた先生はとても丁寧に教えて下さって良かったです。何故そうしなければいけないのか理由をきちんと教えていただき、良かったです。
【喀痰吸引】口腔内・鼻腔内は滅菌手袋を扱わないので、パニックにあまりなりませんでしたが、手順を1つ間違えると焦ってしまいました。今後吸引を行う際は落ち着いて行いたいと思います。
【経管栄養】実際に練習した時と、講師の方がいて行うのでは、全くできていないことがわかり、5回しているうちに色々指導を受け、とても勉強になりました。優しい先生でわかりやすく、緊張を解しながら指導して下さい、ありがとうございました。
【喀痰吸引】とても勉強になりました。今日のことを実践でも活かしていきたいと思います。
【喀痰吸引】先生の優しい指導で行うことができた。今日学んだことを忘れないようにしたいです。
【喀痰吸引】知識として頭の中にあっても、実際にやってみるのは難しかった。今後は本物の患者に行うことが多くなると思うので、より正確にできるようになりたい。
【喀痰吸引】自分なりにシミュレーションしながら手順を覚えてきたつもりでしたが、いざとなると頭が真っ白になり、何をしても良いのかわからなくなりました。先生からもサポートしていただき、無事に合格できました。
【喀痰吸引】動悸と頭痛で最初は失敗続きで悲しくなりましたが、グループの皆さんと先生方のおかげで一日を無事に終了することができました。まだ、ドキドキしています。
【経管栄養】練習ではきちんと行っても、5回目の本番になったら頭から全て消えてしまった。講師の先生方に助けられました。
【経管栄養】イメージトレーニングのみでは感覚を掴むのが難しかったが、回数を重ねることにより、なんとか合格させていただけました。
【経管栄養】初めて行った時は手順が頭に入ってこなくて真っ白になってしまいました。2回3回と回数を重ねるごとにしっかりとできるようになってきました。
【喀痰吸引】緊張しました。最初は優しく徐々に厳しい感じでご指導いただいたので、とても良かったと思います。

平成26年6月13日

シミュレータ演習2日目
【経管栄養】何度も体調や名前が間違えていないか、チューブが折り曲がっていないかを確認することが大切だと改めてわかった。ヒヤリハットも、今更ですが手技が1つでも間違えたら、報告しなければならないということを感じた。人形相手だとなかなか気付けないようなことも沢山教えていただき、ありがとうございました。
【喀痰吸引】吸引の手順をしっかり学んでいくことで、入居者の生命の安全や健康に繋がっていくので、しっかりと手技を身に付けていきたい。また今回の研修を通して学んだことをイメージしながら落ち着いて取り組めるようにしていきたい。
【経管栄養】始めのうちは緊張感からスムーズに言葉が出てこなくて大変だったが、とても優しい先生方の指導により、途中から自分に少し自信が持てるようになり、最後には合格することができました。
【経管栄養】評価表に書かれていないような所まで色々教えていただき、より内容や手順を理解することができま

した。実地でも頑張ります。
【喀痰吸引】気管カニューレ内吸引の手順で不潔・清潔の部分が難しかったです。少しでも不潔部分に触れてしまうことのないように気を付けます。講師の先生方のご指導ありがとうございました。忘れないうちに実施していけたらと思います。
【喀痰吸引】声かけ・観察もとても大切なことだとわかりました。自分が不安で行っていると、患者にも伝わってしまうので、自信を持って行えるようになりたいと思います。大変勉強になりました。
【喀痰吸引】普段看護師の行っている喀痰吸引はいつも何気なく見ていましたが、注意しなければいけない観察項目が沢山あり、今後実地で吸引を行うまで忘れずに毎日練習したいと思います。
【経管栄養】ラインの扱いや賞味期限など忘れやすい所が自分でわかっているので、注意したいです。とても良いグループと先生に恵まれて、あつという間の時間でした。
【喀痰吸引】口腔→鼻腔→気管カニューレと順番に行くことで加わってくる項目が良くわかりました。リラックスして落ち着いて行うように声かけをして下さったので段々と抜ける手順が減りました。
【経管栄養】胃ろう・経鼻・経管栄養を行いました。昨日の吸引とガラリと変わった手順で一回目は沢山間違えました。先生方が丁寧に指導して下さいのおかげで、ゆっくりと手順を踏んで合格できました。
【経管栄養】喀痰吸引と経管栄養を行って、講義では理解できなかったことなどが少し理解できたかな、という感じでした。正直自分にはついていけるか不安でしたが、なんとか全て突破することができて、ホッとした感じです。
【喀痰吸引】緊張しましたが、チームで楽しく研修ができました。時間内に5回合格して帰れるか不安でしたが、回数を重ねるとだいぶ頭に入ってきて、始めよりもスムーズに実施できました。先生方に丁寧に教えていただけて良かったです。
【経管栄養】経管栄養の練習は先日の7日間の中でしていなかったもので、抜けが多く演習するのにとても緊張しました。先生方が優しく教えて下さったので良かったです。シリンジの空気抜きの方法を教わって、すぐに空気が抜けて感動しました。病院に戻ってもやりたいと思います。
【喀痰吸引】とても大変でしたが、先生方に細かい所まで指導していただき、とても勉強になりました。現場で活かせるように頑張ろうと思います。
【経管栄養】緊張しすぎました。手際良く行えるようになりたいです。
【喀痰吸引】昨日の経管栄養とは違い、作業動作が多く、感染のリスクも高いので、昨日より慎重に実習に当たりました。何度もこなす必要があると思いますので、現場での実習も力を入れて行っていきたいです。
【経管栄養】本日、演習を終了できて本当に良かったと思います。先生方の熱心なご指導があり、講義・演習が始まる前は何も知らない・何もできない自分でしたが、大変多くのことを学ばせていただきました。
【経管栄養】昨日行った吸引よりも苦手でした。一連の手順は理解できていたのですが、嘔気・嘔吐・飽満感や表情の変化、吸入動作によるむせ込みやラインや体位・滴下速度などの確認事項が多く、3回目が終わるまではパーフェクトにできませんでした。4回目と5回目すべての事項をクリアでき、無事合格となりました。実際に現場で研修に参加する前にもう一度復習して当日に臨みたいと思います。
【喀痰吸引】先生の指導の下、流れがわかった気がします。手順を忘れないように復習をして実施に備えたいです。
【喀痰吸引】演習はやはり緊張します。担当の先生方には色々助けていただき、無事合格することができました。
【経管栄養】最初から最後までの流れを細かく指導していただき、ありがとうございました。施設に帰り、教えを無駄にしないよう日々努めて参りたいと思います。
【喀痰吸引】清潔・不潔の操作が難しかったです。
【経管栄養】経鼻栄養・胃ろうからの経管栄養の2種類を各5回ずつ行うにあたり、やはりできた所と、できなかった所が多々ありました。
【経管栄養】喀痰吸引の時と同じように手順を間違えてしまうことがあったので、実習では注意したいと思う。
【喀痰吸引】講師の方がとても丁寧に教えて下さり、とても覚えやすく、わかりやすい指導で良かったです。
【喀痰吸引】口腔・鼻腔・気管カニューレに3つをやり、ほとんどやり方は同じでしたが、それぞれ行う時の注意点を意識して実際にできればと思いました。清潔・不潔を分ける際には十分気を付けて行いたいです。
【経管栄養】今後の業務に役立つ研修ができました。
【喀痰吸引】口腔・鼻腔内・気管カニューレ内の吸引実施でした。合格できて良かったです。
【経管栄養】覚える項目は前日より少なかったが、手技の手順を覚えるまで大変でした。状態観察がとても重要で、しっかりと様子を見ないといけないと思いました。実地研修も手順通りできるよう振り返りをします。
【経管栄養】厳しいような優しいような指導でしたが、すごく勉強になりました。先生方に注意を受けたことを忘れずに頑張っていきます。
【喀痰吸引】清潔と確認に注意しながら行いましたが、頭で理解していても実際に行動してみると、とても難しく混乱しそうになりました。口腔・鼻腔・気管カニューレの吸引はそれぞれの特徴を把握することがとても大変でした。現場で行えるようになったら、動揺することなく冷静に動けるよう、今後も努力いたします。
【喀痰吸引】人形を使用しての吸引の評価実習を行った。講師の方も丁寧にわかりやすく指導して下さい、始めの方は失敗ばかりでしたが、最後の方はスムーズに行えるようになった。
【経管栄養】特に大きな問題もなく終わることができて良かったです。先生のご指導のおかげです。

<p>【経管栄養】演習二日目、一日目と比べて楽しく演習を行うことができました。他施設の方と演習内容を話したり、実際の現場を想定してできて、とても満足できる研修でした。</p>
<p>【喀痰吸引】何度行っても焦ってしまいました。先生達にはその度に注意しなければならないこと以外にも、今後注意することや確認することが必要になるアドバイスをいただきました。今回のグループは1人1人が話しやすく、お互いに協調性もあり、安心感がありました。このグループに選んでいただいたことが一番感謝しています。</p>
<p>【喀痰吸引】緊張しているため、昨日同様頭が真っ白になり、項目が覚えられなくなりました。何度も演習しているうちにスムーズに動けるようになりました。助言して下さりありがとうございました。</p>
<p>【経管栄養】経鼻経管栄養で最初の方で細かいミスが多かったので、気を付けて行っていきたい。</p>
<p>【喀痰吸引】細かいチェックが多かったですが、回数を行うごとに漏れがなくなることができようになり、良かったです。清潔・不潔の所では指導の先生に理由など細かく教えていただき、間違えずに行えました。</p>
<p>【喀痰吸引】とても勉強になりましたが、まだまだ練習が必要だと実感しました。</p>
<p>【経管栄養】経管栄養の実技訓練・演習を行った。今までは職場で看護の業務ということで、そこまで注意して見ていなかったのが、今回の実習を通じて経管栄養だけでなく、視野が広がった。今後の業務にとってもとても良い影響を受けたと思う。</p>
<p>【喀痰吸引】吸引チューブとカテーテルの接続が難しく、もたもたすると手袋同士がくっつきそうになり、また清浄面の開け方がなかなかできず、戸惑った。一つ一つ確認し、速やかに吸引動作を行うことが大事だと理解できた。口腔内・鼻腔内の吸引はなんとかできたが、気管カニューレからの吸引は気持ちも更に引き締まる思いだった。</p>
<p>【経管栄養】経管栄養は特に慣れないため、手順を覚えるのが難しかったので、しっかりと復習したいと思います。</p>
<p>【喀痰吸引】利用者の個々の特徴など、重要な所を1つ1つ丁寧に教えていただき、良かったです。</p>
<p>【経管栄養】何度か行っていくが、できた所ができなかったりする所が何度かありました。前回間違えた所を気にしていると、他のことが抜けてしまいます。一連のことと流れを身に付け、自然と行動に移していけるようにしていきたい。</p>
<p>【喀痰吸引】本日は喀痰吸引の演習を行いました。口腔内・鼻腔内吸引と気管カニューレ内部吸引では、安全・清潔に実施することを心掛けました。利用者への声かけにも配慮し、安心していただけるように気を付けました。今回の学びをしっかりと念頭に入れて、手順などを忘れずに実際に行っていけるようにしたいです。回数を重ねて安楽を目指していきたいと思います。</p>
<p>【喀痰吸引】手順は頭に入っているが、本番になると真っ白になり、手順を飛ばしてしまうことがあった。また、慣れてくると流れ作業になりやすく、リスクも高くなるので、手順を覚えて慣れてきても、1つ1つのことを確認しながら声に出して実践したいと思った。</p>
<p>【経管栄養】先生がよくわかるように話を下さり、安心してできました。とても勉強になりました。</p>
<p>【喀痰吸引】先生の指導のおかげで受かることができました。これから役に立っていきます。</p>
<p>【経管栄養】初めての時は、何もわからなかったし、あまり面白くなかったけど、皆で学べて楽しい研修に参加できて良かったです。</p>
<p>【喀痰吸引】きちんとした指導をしていただき、回数も重ねてしまいましたが、自分自身の今後の経験に繋がると思いました。</p>
<p>【喀痰吸引】沢山間違えましたが、優しい指導で理解することができました。</p>
<p>【経管栄養】安全に行うには、手技だけでなく、嚥下機能なども知っていないとできないのと、毎日の患者の状態を知っておかなければいけないと思いました。患者に伝える声かけも難しかったです。緊張した9日間でした。</p>
<p>【経管栄養】昨日が吸引でしたが、今回の経管栄養の方が難しく感じました。確認・観察することが多く、こんがらがってしまい、言葉がどもってしまうことが多かったです。そんな私に優しく熱心に先生方が教えてくれ、徐々に緊張も解すことができました。先生方とグループの仲間に出会えて良かったです。</p>
<p>【喀痰吸引】始めは指導の方に手順を覚えていただきながらでしたが、段々と手順を覚えました。時々同じ場面で忘れてしまいましたが、回数が増えていくごとに覚えてスムーズに行うことができました。何か忘れていないか不安ですが、落ち着いて今度の本番に向けて頑張りたいです。</p>
<p>【経管栄養】胃ろうによる経管栄養と経鼻経管栄養を行いました。基本動作はほとんど変わらないため、観察項目などの細かい所を間違わないように注意して行いました。指導者の方も優しくわかりやすく教えて下さったので、スムーズに終了できたので良かったです。今回の演習の評価項目としては入っていないが、注意する点なども教えていただき、より利用者に気を配ることの大切さを学ぶことができて本当に良かったと思います。今後の実施研修では今回のことを思い出して、ミスなくできるように注意して行っていきたいと思っています。</p>
<p>【経管栄養】1つ覚えると1つ忘れての繰り返しで、本当にこれで合格をいただいて大丈夫なのだろうか不安になりました。これで終わらず、ちゃんと覚えて実践できちんと行えるよう頑張りたいです。実際に経管を入れる時はシミュレーションとは違うのだろうかと感じました。</p>
<p>【喀痰吸引】チューブの扱いに慣れていないので、そこはやはり難しかったです。しかし、何度も繰り返すことで、最初よりは格段に良くなったのではないかと思います。清潔・不潔の判断は目に見えない分難しい部分も多く、常に考えながら動くように心掛けました。滅菌手袋はSがもっと沢山あると良いと思います。実習に向けて沢山練習できて良かったです。</p>

【経管栄養】一つ一つ細かいことまで教えて下さり、とても勉強になりました。実地研修でも学んだことを活かしていきます。
【喀痰吸引】3種を5回は正直つらかったですが、今後活かしていければ良いと思います。
【経管栄養】しっかりと手順を覚え、利用者へ実施するまでには完璧にしていけないと、利用者へ迷惑をかけてしまうので、絶対にそのようなことがないように頑張ります。先生の指導がわかりやすく、丁寧だったのでとても良かったです。
【喀痰吸引】喀痰吸引では、口腔内→鼻腔内→気管カニューレ内と進むうちに、手順などは馴染んできたが、ひとつ変わるだけで前にはできていたことが抜けていたり、できなかつたりと上手くいかなかった。自信を持って行わないと利用者を相手にした時に不安・不信感を与えてしまう。今後実践と勉強をしっかりしていきたい。
【経管栄養】実際に行い、何度も同じことでも確認することが大事だとわかりました。手順はだいたいわかっていますが、抜けてしまう時があるので、しっかりイメージしながらやっていきたいです。
【喀痰吸引】経管栄養・喀痰吸引の演習を通して、改めて安全に介助を行わなければいけない事柄だと実感しました。今回学んだことは生命に直接影響する内容なので、実地研修までにきちんと方法論について再度学習し、実地研修に望みたいと思いました。
【経管栄養】優しい先生方のおかげであまり緊張することなく演習を行うことができ、幸せでした。
【経管栄養】この度、実技の方で四苦八苦しており、先生の教えで合格をいただきました。病院に戻って教わったことを活かし、実技を実施していきます。
【経管栄養】繰り返し演習を行い、理解できたと思います。また、現場に出た時の注意点なども教えていただき、勉強になりました。
【喀痰吸引】しっかりと自己学習を行い、実践では安全かつ確実に喀痰吸引を行えるようにします。
【喀痰吸引】清潔不潔の大切さがわかった。実施でもできるよう頑張ります。
【喀痰吸引】気管カニューレ内の喀痰吸引や、清潔と不潔の手順が難しかったです。この研修で学んだことをしっかりと実行できるようにしたいです。
【経管栄養】喀痰吸引と同じように清潔・不潔の区別をしっかりしていきたいと思います。そして声かけもしっかりして、利用者とのコミュニケーションを取っていききたいと思います。
【喀痰吸引】ある程度理解しているつもりでいても、実際にやってみると全くできなくて、改めて吸引などの重要性を実感しました。しかし、温かい先生方が一生懸命指導して下さいました結果、大体形というものができてきました。これから施設に帰り、先生の指導を思い出しながら行っていききたいと思います。貴重な経験をありがとうございました。またこのような機会があれば良いと思いました。
【経管栄養】勉強になりました。今日の演習を実践にも活かしていきたいと思います。
【喀痰吸引】口腔内・鼻腔内・気管カニューレの吸引は、流れはよく似ているので大丈夫と安心していましたが、実際にやってみると今までできていたことが急にできなくなり、不安になることもありました。しかし、無事に終わることができました。今まで沢山のことを勉強させていただきました。
【経管栄養】今回学んだ吸引・経管栄養を相手の立場になり正確に行えるようにしていきたいです。
【経管栄養】身体で覚えるようにしないといけないと思った。また、時間が経つと忘れてることもあると思うので、今回の経験を忘れないようにしたい。
【経管栄養】昨日吸引の演習を行った分、少し気が楽な状態でできました。本日は経管栄養だったのですが、経鼻からの時にチューブの方が頬から取れかけました、演習でやってみて気を付ける点がわかり、勉強になりました。講義から演習までわかりやすく教えていただき、ありがとうございました。病院に戻ってからも看護師の指導の下、頑張っていきたいと思います。
【経管栄養】演習2日目も昨日に続きドキドキが止まりませんでした。本番はやはり頭が真っ白になりましたが、グループの皆さんの気遣いと先生の優しい眼差しでなんとか乗り切ることができました。このグループで良かったと思いますし、先生方にも心から感謝いたします。
【喀痰吸引】清潔操作はなかなか行うことがなく、とても勉強になりました。
【喀痰吸引】実際の対象者を吸引するにあたり、声かけを大切に、焦ることなく対応していこうと改めて感じました。先生方に感謝しています。
【喀痰吸引】口腔・鼻腔・気管カニューレの吸引は同じように見えて全く違いました。しかし、正しい手順を覚えないと患者を危険な目に合わせてしまうので、地元に戻ったらもっと練習を行って喀痰吸引を行えるように頑張ります。
【経管栄養】自分の病院の現場で行っている過程や道具と少し違って戸惑いましたが、何とか修正できました。

たんの吸引研修を通しての感想・意見

5月24日から今まで本当に色々ありがとうございました。知らなかったこと、わかっているようでできていなかったこと、知っていてもより深いところを学べた気がしました。この研修を通して他の施設の方とも仲良くなれ、他の施設ではどんなことをしているかなど、勉強面以外にも色々なことを知ることができました。

痰の吸引が経管栄養だけでなく、一般的な介護技術や知識の面でも新しい発見があり、充実した時間でした。

今後、医療度の高い高齢者はますます増加していく中で、介護スタッフが少しでも正しい医療知識を持ち、人生を支

<p>えていくことが、急変時・異常時への早期対応へ繋がると思います。また、それが元気で自分らしく生活することに繋がると思います。ここで得た知識・技術を宝として正しく使用し、1人でも多く高齢者が自分らしく暮らせるサポートをしたいです。</p>
<p>とても体力的に疲れてしまいましたが、皆で頑張ったので楽しい研修になりました。先生から教わった痰の吸引などの知識と技術はこれからの現場に活かし、伝えていきたいと思います。</p>
<p>知識を学ぶ7日間はぶっ通しできつかったです。間に1日でも良いので休みが欲しかったです。今までなんとなくでしか見ていなかった痰の吸引や経管栄養ですが、知識を学んだことで、見えるようになった部分が沢山ありました。良い機会を与えていただけて、会社を始めとして日本慢性期医療協会や多くの先生方に感謝しています。2日間の演習でも親身になって丁寧に手順を教えて下さった先生方に会えて良かったです。現場で活躍できるように頑張りたいです。全9日間お世話になりました。お弁当も美味しかったです。</p>
<p>9日間の研修は長くて気持ちが重かったのですが、無事終わることができて良かったです。この研修で出会うことができたチームのメンバーに感謝しています。</p>
<p>人形や人に見立てたペットボトル相手に頭で光景を想像しながら実施したので、難しかったのと5回目が終了するまで気が抜けず、とても疲れしました。実際に現場で利用者に実施する時は一連の流れは今回より行いやすいと思いますが、利用者が拒否や暴力などを発生し、想定外の事態が予想されます。そういったことが起こった際には、冷静な状況把握と何が必要なのかよく考え、事故がないよう安全に行いたいと思います。</p>
<p>座学とシミュレーションを通して、喀痰吸引を行うにあたっての危険性や怖さを知りました。実施前に見直しを行ってから臨んでいきたいと思います。</p>
<p>計9日間ハードなスケジュールでしたが、他の施設の方とお話をする機会もあり、とても良い研修でした。この研修で学んだことを忘れないように、これからの仕事をしていきたいと思います。</p>
<p>今までほとんど喀痰吸引を見る機会がなかったので、とても勉強になりました。手順もまだまだ忘れてしまう可能性もあるので、しっかり復習し、今後現場で活かせたらと思います。声かけの仕方でも患者に安心感を持って貰えると先生が仰っていたので、気を付けていきたいと思います。</p>
<p>先生のご指導に感謝しているのもそうですが、色んな人の協力と気持ちで1人1人が良い方向に向かったのが良かったのではないかと思います。</p>
<p>現場で安全に活用していきたい。とても多くのことを学ばせていただき、ありがとうございました。</p>
<p>講義を1週間通して少し大変だったが、演習まで期間があったので、勉強できる時間があった良かった。先生方が優しく教えて下さったので、頑張れたと思います。</p>
<p>普段目にしてきたことも、実際に行うとなるととても緊張し、シミュレーションをしても実物(機器)を前にすると、とてもイメージ通りにはいかないものだと痛感した。特に気管カニューレ吸引は清潔に気を付け、区別を付け、接触しないことが大切であると勉強になった。実地研修に向けてイメージトレーニングを重ねていきたいと思う。</p>
<p>7日・2日と分かれていたのは良かったが、7日間続けて9:00~18:00と続く疲れがかなり溜まった。</p>
<p>時間が少なく大変でしたが、他のグループの配慮があり、無事終わって良かったと思います。今後の介護において、実践できればと思います。</p>
<p>通ってくるのに時間がかかるため、7日間の連日は疲れが出ました。しかし先生方も全員の合格を応援して下さい、班の仲間との協力も有難く、職場は違えど短い時間で良い関係が作れました。勉強したことは施設で行っていきけるように忘れることなく身に付けたい。</p>
<p>痰の吸引研修を通して、様々なことを学ばせていただきました。手順や観察・確認をしっかり復習し、実際に行う上で利用者の気持ちになって行っていきたいです。今回の研修で声かけの大切さを知りました。利用者への声かけによって、安心感を与えることも知りました。このような学びをしっかりと念頭に入れ、安全に行っていききたいです。</p>
<p>講師により項目以外についての助言があるのは良いのですが、聞いている余裕がないので、なるべく項目のみのことだけにしたいです。</p>
<p>1週間研修に行った時、講義や実践をしたりなど、本当に自分が筆記試験に受かるだろうかと不安でしたが、合格することができました。病院では喀痰の研修をした先輩の話の聞いたりして注意点を聞きました。今回の2日間の研修にあたっては、なかなか仕事で疲れて予習する時間がなく、勉強することができませんでしたが、グループの方、指導者の方に丁寧に教えていただいたおかげで無事に合格し、終わることができました。</p>
<p>吸引も経管栄養も優しく指導していただき、無事終了することができて、本当に良かったです。最初は緊張してしまい、ミスもしてしまいましたが、回数を重ねるごとに段々緊張も取れてミスも少なくなってきました。今回はシミュレーターでしたが、今後は利用者に実際に協力していただき行うことになるので、利用者に安心して安楽に行えるよう注意していきたいです。</p>
<p>普段看護師がやっているのを見ているのに、これだけのことを気を付けているんだと少し驚きました。看護師は流れがすっかり板に付いているから、私達では気が付けない部分で苦勞もしているんだと思います。実際に私達がどれだけやることになるのかはわかりませんが、何度も実際に物品に触ることで、これから起こる万が一のことに少しは役立つのではないかと思います。他の人の良いところを見て学ぶということの大切さも痛感しました。</p>
<p>大変でしたが、気管カニューレの滅菌に十分気を付けようと思いました。</p>
<p>西日本近辺でも研修を開いて欲しいです。よろしく願います。</p>

<p>最初は不安でいっぱいでしたが、グループの方など皆さん良い人ばかりで、9日間の研修を終えることができました。講師の先生方も優しく楽しく講義・演習していただいたので、とても楽しい研修でした。実地研修もこの演習を忘れずに頑張っていきたいと思います。9日間お世話になりました。東京会場は最高でした。</p>
<p>痰の吸引研修では頭の中だけではなく、身体でも覚えることの重要性がわかりました。今後の業務に活かしていきたいです。</p>
<p>7日間の講義から始まり、不安でしたが、先生達から優しく指導していただき、演習まで終えることができました。まだまだ不安がいっぱいですが、病院に戻ったら看護師の指導の下に実施し、少しずつ自信を付けていきたいと思えます。本当に色んなことを学べた9日間でした。</p>
<p>医療行為の一部に携わる一歩として、自覚と初心を忘れず頑張ります。</p>
<p>最初は研修期間が長すぎると思いましたが、実際に受けてみると適度な時間だったのかなと思いました。演習ではマニュアルから外れた時のリカバリーの方法をもっと知りたいと思いました。また、グループ外の方々と会話する機会が少なかったのが、初日のオリエンテーションで地域ごとにグループの紹介があっても良かったのかなと思いました。</p>

2-3. 第4回神戸会場プログラム

平成26年10月18日(土)

9:30~11:30	<p>1 保健医療制度とチーム医療 慢性期医療における慢性期医療・介護概論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健医療に関する制度 ・医行為に関係する法律 ・チーム医療と介護職員との連携 <p>講師：伊豆敦子（泉佐野優人会病院・医師）</p>
11:40~13:10	<p>2 人間と社会 慢性期医療における終末期医療と介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊厳と自立 ・医療の倫理 ・利用者や家族の気持ちの理解 <p>講師：桑名斉（信愛病院・医師）</p>
14:00~16:00	<p>3 安全な療養生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 ・救急蘇生 <p>講師：榊原麻希（東大阪病院・看護師）</p>
16:10~17:40	<p>慢性期医療における医療事故対策（グループワーク）</p> <p>講師：井川誠一郎（浜寺中央病院院・医師）</p>

平成26年10月19日(日)

9:00~10:30	<p>4 清潔保持と感染予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防 ・職員の感染予防 ・療養環境の清潔、消毒法、滅菌と消毒 <p>講師：仲井培雄（芳珠記念病院・医師）</p>
10:40~12:10	<p>慢性期医療における感染症の介護と管理</p> <p>講師：伊藤貴子（小林記念病院・看護師）</p>
13:00~14:30	<p>5 健康状態の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体・精神の健康 ・健康状態を知る項目（バイタルサインなど） <p>講師：池端幸彦（池端病院・医師）</p>
14:40~16:10	<p>高齢者の身体特性と介護職員のための救急処置の実際</p> <p>講師：池端幸彦（池端病院・医師）</p>
16:20~18:20	<p>慢性期医療における認知症介護</p>

	講師：松谷之義（松谷病院・医師）
--	------------------

平成26年10月20日（月）

9：00～10：30	8 喀痰吸引・経管栄養にともなう急変・事故発生時の対応と事前対策 講師：榊原麻希（東大阪病院・看護師）
10：40～12：10	慢性期医療における脳血管疾患管理 講師：越智 豊（北摂中央病院・医師）
13：00～14：30	慢性期医療におけるスキンケア 講師：木下祐介（光風園病院・医師）
14：40～16：10	慢性期医療における褥瘡の予防と治療 講師：木下祐介（光風園病院・医師）
16：20～17：50	慢性期医療におけるケアプランと看護・介護計画 講師：川添チエミ（嵯峨野病院・看護師）

平成26年10月21日（火）

9：00～10：30	慢性期医療における排泄ケア 講師：福本京子（有吉病院・看護師）
10：40～12：10	6 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 1 ・呼吸のしくみとはたら ・いつもと違う呼吸状態 講師：田中圭一（有吉病院・医師）
13：00～14：00	慢性期医療における薬と検査 講師：田中圭一（有吉病院・医師）
14：10～16：10	6 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 2 ・喀痰吸引とは ・人工呼吸器と吸引 講師：進藤晃（大久野病院・医師）
16：20～18：20	6 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 3 ・子どもの吸引について ・吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 ・呼吸器系の感染と予防（吸引と関連して） ・喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認 講師：北島美和子（博愛記念病院・看護師）

平成26年10月22日（水）

9：00～11：00	7 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 1 ・消化器系のしくみとはたらき ・消化・吸収とよくある消化器の症状 ・経管栄養とは ・注入する内容に関する知識 講師：木田雅彦（福島寿光会病院・医師）
11：10～12：10	慢性期医療における栄養サポートチームアプローチ 講師：木田雅彦（福島寿光会病院・医師）
13：00～15：00	7 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 2 ・経管栄養実施上の留意点 ・子どもの経管栄養について ・経管栄養に関係する感染と予防 ・経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 ・経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認